

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成31年4月4日(2019.4.4)

【公開番号】特開2018-166253(P2018-166253A)

【公開日】平成30年10月25日(2018.10.25)

【年通号数】公開・登録公報2018-041

【出願番号】特願2017-62543(P2017-62543)

【国際特許分類】

H 04 B 10/116 (2013.01)

H 04 N 5/235 (2006.01)

【F I】

H 04 B 10/116

H 04 N 5/235 3 0 0

H 04 N 5/235 6 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成31年2月18日(2019.2.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

上記目的を達成するため、本発明に係る情報処理装置は、

所定の露光時間で撮影された画像を入力する画像入力手段と、

前記画像入力手段に入力された画像における、可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が前記情報の取得が可能となるように、露光時間を調整するよう制御する露光制御手段と、

を備えることを特徴とする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定の露光時間で撮影された画像を入力する画像入力手段と、

前記画像入力手段に入力された画像における、可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が前記情報の取得が可能となるように、露光時間を調整するよう制御する露光制御手段と、

を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】

撮影されるべき画像における前記可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域とみなされる位置座標を設定する設定手段を更に備え、

前記露光制御手段は、前記設定手段によって設定された位置座標の画像領域が前記情報の取得が可能となるように、前記露光時間を調整するよう制御することを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記設定手段によって設定された位置座標に、前記可視光通信にて情報を送信する情報

光源の画像領域が存在するか否かを判断する判断手段を更に備え、

前記露光制御手段は、前記判断手段により前記可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が存在しないと判断された場合に、前記可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が前記情報の取得が可能となるように、前記露光時間を調整するよう制御することを特徴とする請求項2に記載の情報処理装置。

**【請求項4】**

前記判断手段は、前記可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が存在するか否かを、その情報光源の輝度が予め設定された範囲に含まれるか否かで判断することを特徴とする請求項3に記載の情報処理装置。

**【請求項5】**

前記露光制御手段は、複数の露光時間に調整可能であることを特徴とする請求項1乃至4の何れか1項に記載の情報処理装置。

**【請求項6】**

前記画像入力手段に入力された画像における前記情報光源の画像領域は複数あり、前記露光制御手段は、前記複数の情報光源の画像領域夫々について前記情報の取得が可能となるように、露光時間を調整するよう制御することを特徴とする請求項1乃至5の何れか1項に記載に記載の情報処理装置。

**【請求項7】**

前記露光制御手段によって調整された露光時間を用いて前記複数の情報光源の画像領域夫々について前記情報の取得を行うよう制御する取得制御手段を更に備えることを特徴とする請求項6に記載の情報処理装置。

**【請求項8】**

情報処理装置において、所定の露光時間で撮影された画像を入力する画像入力ステップと、前記画像入力ステップにおいて入力された画像における、可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が前記情報の取得が可能となるように、露光時間を調整するよう制御する露光制御ステップと、を含むことを特徴とする情報処理方法。

**【請求項9】**

情報処理装置としてのコンピュータを、所定の露光時間で撮影された画像を入力する画像入力手段、前記画像入力手段に入力された画像における、可視光通信にて情報を送信する情報光源の画像領域が前記情報の取得が可能となるように、露光時間を調整するよう制御する露光制御手段、として機能させることを特徴とするプログラム。